令和元年度　学校評価報告書（目標設定・実施結果）

	視点	３年間の目標 （平成29年度策定）	１年間の目標	取　組　の　内　容		校　内　評　価		学校関係者評価 （３月10日実施）	総合評価（３月24日実施）	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1	教育課程 学習指導	○基礎学力の充実を図り、生徒が社会の中で自信を持って自らを生かそうとする姿勢を養う。	○様々な機会や手段を活用し基礎学力の定着を図るとともに、将来にわたり学びを続けようとする姿勢を養う。	○基礎学力の定着を重視し、必修科目のより一層の充実を図る。	○生徒による授業アンケートの「授業の充実感」に係る肯定的な回答の比率が、前年度調査より向上したか。	○調査指標が改められたことから単純な比較は難しいが、基礎学力の定着を重視する授業に対する肯定的評価はやや向上した。	○授業における「ねらい」の提示や学習の振り返りを、各教科共通の取組として定着させるとともに、生徒同士の意見交換や、思考力の向上を図る授業づくりをさらに進める。	○一層の授業改善に努めることが必要。（校内研修や授業研究会の活性化、さらに朝や放課後を利用したグループ学習会を生徒たちに企画させる等。）	○基礎学力の定着を重視した授業の工夫について、生徒からの肯定的評価は向上が見られた。なお一層の授業改善を進める必要がある。	○近隣の中学校等と連携した授業研究会等を開催することを検討し、多角的に意見交換を進める等、授業改善を進めていく。
		○普通科への学科改編により教育活動が充実したものとなるよう努める。	○生徒一人ひとりが自己を取巻く社会を知り、そこで生きるために必要となる力を身に付けることに資する教育課程編成を検討する。	○新学習指導要領及び高大接続改革に対応した、単位制普通科の教育課程編成の検討を進める。	○生徒のニーズに対応する科目設定が検討されたか。	○新教育課程の編成は検討途中である。	○本校に進学する生徒の学習に関するニーズや、キャリア設計の現状と課題を踏まえた、魅力のある教育課程づくりを今後、進めていく。	○教育課程編成では大師高校の特色を打ち出しながら計画的に進めることが必要である。外国につながる生徒の学習意識を上げ、日本語から国語学習に取組む授業体制を作ることが課題である。	○新学習指導要領に準拠した教育課程の研究を進めた。本校の特色と生徒のニーズに応えられる教育課程づくりを進める必要がある。	○単位制普通科高校としての特徴を生かすとともに、地域の期待や生徒のニーズに対応した教育課程を編成する。
		○生徒が主体的に学習し、成就感や達成感を味わうことのできる授業づくりに努める。	○生徒の主体的学習活動をもとにし、生徒同士がお互いを高めていく授業を各教科各単元に取入れていく。	○主体的・対話的で深い学びの視点に立った授業を各教科で単元ごとに取り組む授業の研究を組織的に進める。	○組織的に授業研究・改善に取り組み、生徒による授業アンケートの「生徒主体の授業の工夫」に係る肯定的な回答の比率が、前年度調査より向上したか。	○課題解決方法の模索を取入れた授業について各教科で取組み、生徒による授業アンケートでの肯定的な評価は前年度とほぼ同様であった。	○ＩＣＴ機器の活用など、わかる授業づくりの工夫を、教科・学校全体で共有資産とする仕組みを構築する。	○総合的な学習の時間では生徒の主体的な取組みやパソコンのスキルも高く、総合学科時代のノウハウを活かした取組みとなっていた。	○ＩＣＴ機器の校内整備も進み、日常的な授業の活用も取組が進んだ。今後は生徒のスキルを生かした授業づくりを一層工夫する必要がある。	○校内のｗｉｆｉ環境を生かしたネットワークによる学習の仕組みを整備し運用する。また、教員個々の取組を教科全体の取組へ広げていく。
2	生徒指導・支援	○社会生活のルールと基本的な生活習慣を身につけ、それを守ろうとする態度を育成する。 ○多様な課題を抱える生徒の状況を的確に把握し、家庭と連携して課題解決に役立てられる適切な支援を行う。 ○交通安全教育を徹底して、生徒が安全に登下校できるよう努める。	○様々な生活場面で、そこに応じたルールを守り、マナー意識を高めていく助言・指導を組織的に展開していく。 ○生徒一人ひとりに対し、的確な情報把握と共有化を図るとともに、外部関係機関との高密度な連携を図り、指導・支援を充実させていく。	○日常の地道な指導を通じて、ルール遵守の意識を涵養する。 ○生徒に関する情報共有を綿密に行い、教育相談組織を通じて外部機関との連携を図り、的確な生徒支援を実践する。	○服装・頭髪・遅刻に対する意識が向上し、また、指導される生徒が減少したか。 ○緊急時以外の場面でも、教育相談関係の会議をできるだけ多く開催し、迅速かつ的確な支援が行えたか。	○指導対象となる生徒は一定程度存在したが、粘り強く指導し、その都度改善がなされた。 ○10 回にわたり教育相談関係の会議を開催し、迅速かつ的確な支援を実践した。	○遅刻指導を重点的に、通年での指導をさらに徹底していく。 ○教育相談関係の組織をはじめ、的確な生徒支援を行う上で必要な組織のあり方について改めて見直し、改善していく。	○年々指導対象となる生徒が減少しているように感じる。気持ちの良い挨拶ができるなどマナー意識を高める指導を取入れることが必要である。 ○外国につながる生徒の支援等を話し合う会議を年３回ぐらい開催することが必要である。	○指導される生徒は減少してきたが、遅刻指導において、改善しない生徒が増えたことが課題である。 ○教育相談や外国につながりのある生徒の支援を議論する組織のあり方を見直した。今後は実践的で有効な活動を具体的に行うことが課題となる。	○従来の指導方法を見直し、より有効な指導の方策について考えていく。 ○職員間の情報共有を綿密に行い、組織として外部機関と連携を図り、具体的な方策を練っていく。
		○生徒の自己肯定感を培い、他を尊重し、思いやりのある豊かな心をもって他と協調する姿勢を養う。 ○部活動を推進し、豊かな心を育成し、自主性と自立性を身につけさせる。	○生徒一人ひとりの安心で心地よい学校生活をサポートするため、課外活動・学校行事の充実も含め、生徒の居場所づくりを意識した活動を展開していく。	○生徒同士、または教員との様々な情報交換や共有から学校行事の内容を充実させる。また、放課後や長期休業を利用した学習面等のサポートを拡充させる。	○生徒のニーズにあった取組が行われ、生徒の意欲や参加率が高まったか。	○学校行事の運営や部活動の応援等生徒の意見を反映した取組が実施出来た。学習面では教科と年次が連携し組織的にサポートしたことで多くの生徒が放課後教室へ意欲的に参加した。	○学校行事や部活動、さらに学習面におけるサポートの在り方を職員全体で共有し、組織的に取り組んでいく必要がある。	○学習面のサポートで意欲的な生徒の参加が見られたことはとても良い。今後も生徒のニーズを踏まえたサポートを進めて欲しい。部活動加入率など高めるには具体的な数値目標を掲げ、教職員が一体となって取組む意識作りが必要である。	○生徒が安心で心地よい学校生活を送ることができるよう適切な支援体制を構築することができた。様々な支援に工夫を凝らし生徒理解に繋がる学校体制の整備が課題である。	○教育相談や外国につながりのある生徒の支援では外部機関とのつながりを強化し、迅速で実効性のある支援を行う。学校行事等では具体的な数値目標を掲げ、組織的に取り組んでいく。

３	進路指導・支援	○社会の中で積極的に自らを生かそうとする姿勢とコミュニケーション能力を育成する。 ○自らの基礎学力を伸ばす努力を大切にし、自分の夢を描く力を身につけ、卒業時の進路について主体的に判断できる力を涵養する。	○各教科学習、総合的な探究（学習）の時間、技能審査や校外講座等の学校外活動、ＬＨＲでの活動を相互に連携させていく視点から学校全体のキャリア育成構想を検討していく。 ○様々な手段や情報を活用し、生徒との対話を重視し、生徒自らの主体的な判断を導く指導と支援を充実させる。	○様々な場面での活動が連携できているか検討し、定期的に改善・修正を行う。 ○進路活動室の利用を活性化し、相談や説明に応じ進路実現に向けて主体的に判断できるように生徒を支援する。	○年次間や他グループとの情報共有や定期的な点検が行えたか。 ○進路活動室の利用が増え、生徒が自発的に進路活動を行える支援ができたか。	○年次やグループ間での情報共有から基礎学力診断テストなどの業者模試、ＧＡＴＢなどの導入、さらに環境整備を行った。 ○進路活動室、自習室を整理し、インターネットを活用した指導体制を確立した。	○様々な場面での活動における連携が不十分なところもあり、職員全体の共有化が図れるよう、見通しが立つ形で周知していく必要がある。 ○進路の情報誌や求人票などを整理し、進路活動室の利用状況の向上と自発的な活動が行える環境づくりに努める。	○生徒だけでは方向性は見分けられないため、家庭とのコミュニケーションもより強化することが大切である。 ○将来の目的意識をもたせるよう、進路指導に努めてほしい。インターン制度的な取組推進のため企業等との連携をさらに強化してほしい。外国につながる生徒への進路保障のため現実を踏まえた進学支援、就職指導が重要である。	○さまざまな活動の年間計画を整理し、相互の取組を連携させる体制は整った。今後生徒にどのようにフィードバックし、有効な活用について取り組むかが課題である。 ○ＩＣＴを活用した進路活動（Ｗｅｂでの求人票検索など）進路活動室での利用を拡大した。個々の生徒のニーズに対応したキャリア支援が課題である。	○インターンシップや事業所訪問、さらに外部講師等を招く際には目的と教育効果に鑑み、選出する。 ○進路情報の収集や進路相談の場として進路活動室や自習室、ふれあい広場などの活用を充実させる。
４	地域等との協働	○地域の教育資源が最大限活用できるよう努め、教育活動全体を通じて体験活動を重視しながら、キャリア形成に努める。 ○地域や保護者との連携をさらに進め、地域に開かれ信頼される学校づくりを進める。	○授業や学校行事等において、保護者も含めた地域の様々な教育資源を有効に活用した活動を展開していく。 ○授業や学校行事、課外活動を通じて地域と双方向の交流を進めながら、地域貢献に取組んでいく。	○事業所訪問や企業説明会等、地域の様々な教育資源を有効活用し、さらに保護者の学校行事等への参加ならびにサポート体制を充実させる。 ○部活動体験や地域のごみ拾いなど、学校が地域とともに発展できるように努める。	○生徒の希望に合わせた教育資源を提供できたか。ＰＴＡの委員会の取組を通じて本校の教育活動を広めることができたか。 ○部活動体験の参加者数が前年度より増加したか。	○生徒に事業所訪問等で地域の教育資源を提供した。ＰＴＡの体育祭でのサポートならびに文化祭への参加が実現した。 ○部活動体験の参加者は昨年度より減少したが、新たに実施した中学生向けの部活動体験会では、32 名が参加した。	○教育的効果を高めるために生徒のニーズに沿った地域や外部の教育資源を選定していく必要がある。マチコミメール等を活用し保護者からのサポート体制をより充実させていく。 ○部活動体験会の開催日を早めに近隣の中学校等に周知する必要がある。	○他校種との教師間交流などは実現できる。互いに授業参観し、意見交換等から研讃が積むことも必要である。 ○部活動体験は今後も積極的に開催していくことが必要である。面倒見の良さや、明るい校風といった大師高校の魅力を体感してもらえる良い機会になる。	○保護者の体育祭でのサポートならびに文化祭への参加が実現した。教育資源を有効活用していくことが課題である。 ○中学生向けの部活動体験会を新たに実施し、各部の面倒見の良さや大師での部活動をアピールできた。参加者を多く募るためにも開催日を早めに周知することが必要である。	○有効な情報発信ツールで保護者のサポート体制を充実させるとともに生徒のニーズに沿った教育資源を選定していく。 ○部活動体験会の開催日をホームページ等で早めに公表する。職員全体で取り組む体制を築く。
５	学校管理 学校運営	○本校の教育活動を積極的に発信し、広報活動を推進し、地域や生徒・保護者等広く教育活動の理解が得られるよう努める。 ○普通科への学科改編による必要な整備を行うとともに、中学生等へ周知し、新たな学校の魅力の理解が得られるよう努める。 ○生徒の防災意識を高め、命を守り大切にする行動がとれるように指導するとともに、地域社会において、協調して貢献しようとする生徒を育てる。 ○事故について、未然防止に努めるとともに、起きた際には、最善の対応を尽くす。	○新しいホームページ運用システムやまち comi1 等情報伝達ツールの活用を含め、保護者や地域社会および中学生等に対し本校の教育活動を積極的に発信していく。 ○校内の美化や環境保全に努め、現有設備・施設を有効に活用した教育環境の整備を進めていく。 ○安全で安心な学校生活を送るため地域との連携も含め危機管理体制を充実させるとともに、危機管理に対する生徒の意識向上に努めていく。 ○事故・不祥事の未然防止を主眼にした意識啓発に努めるとともに、風通しの良い職場環境づくりを更に進めていく。	○学校全体で新しいホームページの内容を充実させ、円滑に更新できる体制を築く。学校案内や学校説明会ではよりわかりやすい内容に改善し、多くの方に理解を得られる広報活動を展開する。 ○生徒が環境問題を意識した生活が送れるように啓発し、さらに現有設備・施設の整備を迅速に行う。 ○防災訓練の機会を有効に活用し、生徒が自らの命を守る行動がとれるよう促す。 ○校内研修をとおして、事故・不祥事防止の意識啓発を図るとともに、職員間で情報共有を密に行う。	○ホームページの更新が迅速かつ適切に行えたか。学校説明会参加者アンケートの「十分理解ができた」の回答率が４割以上になったか。 ○ゴミの分別を徹底させることができたか。進路活動室やパソコン関係等、教育環境の整備が進んだか。 ○避難訓練（火災）とシェイクアウト訓練（地震）を計画的に実施し、危機管理に対する生徒の意識向上が図れたか。 ○職員間で情報共有する機会を増やし、迅速かつ適切に対応することができたか。	○ホームページの更新は迅速に行える体制作りは築けたが、作業に手間取り更新時期が遅れることもあった。 〈学校説明会参加者アンケート〉 「十分に理解できた」52.2% （前年比 19.5％↑） ○学校行事におけるゴミの分別はある程度徹底できた。教育環境の整備は概ね進んだ。 ○６月に避難訓練９月にシェイクアウト訓練を実施し、生徒の防災意識を高めることができた。 ○さまざまな場面で情報共有を綿密に行い、迅速かつ適切に対応することができた。	○ホームページの更新が円滑に行えるように研修会の実施やきめ細かな点検をしていく必要がある。学校説明会の趣旨を前面に出す等中学生の興味・関心が高まる広報活動を検討していく。 ○ゴミの分別だけでなく校内美化にも全職員で取り組む必要がある。 ○防災訓練において一部の生徒が真剣に取り組んでいない状況があり、入念な指導が必要である。 ○職員間の連携を図り、常に情報共有できる環境をつくっていくことが必要である。	○学校案内は、中学生目線の構成で学校生活を魅力的に伝えている。この内容をホームページにも展開できるとよい。 単位制普通科高校としての強みを生かし、中学生やその保護者に対して更なるアピールをしていくことが必要である。 ○校内がキレイであることは、学校選択の一つの要因となる。日頃から、清掃や、ポスターなどの掲示物、デコレーションに気をつけることが必要である。校内美化の取組みは、生徒の満足度向上にもつながる。	○新しいホームページの整備等情報伝達ツールを活用する体制は築けた。しかし、情報の発信時期等に課題が残った。 ○ＩＣＴ機器の校内整備においてｗｉｆｉ環境に不具合が生じることがある。早めに改善することが課題である。 ○火災や地震を想定した訓練から生徒の防災意識を高めることができた。今後は危機管理に対する意識向上を図ることが課題である。	○学校行事等の情報はタイミングよく発信するとともに生徒の地域での活動なども掲載していく。 ○継続して校内美化の向上に取り組むとともに教育環境の整備を行っていく。 ○地域防災の観点からＤＩＧを実施する。